

# 当別町農業10年ビジョン見直しの概要

## 第1期 当別町農業10年ビジョン

●期間:平成27年度～令和6年度

●基本理念:当別町農業の強みを活かす経営理念と行動指針

- ①広大で生産力が高い土地と水資源、高度に整備された用排水インフラ
  - ②多様な土地条件のもと守備範囲の広い農業生産を展開
  - ③大都市(札幌圏域)に隣接する地の利
- ・①～③の強みを活かし、新鮮で安全安心な農産物の生産を行う。

●将来構想:令和6年度の目指す姿

- ・「本当の美味しさ・新鮮さ、安全・安心、彩り」を提供できる、無くてはならない産地と認知されている。
- ①価格決定力を持つ地位を確立している。
  - ②多様な担い手が活躍している。
  - ③6次産業化により収益及び雇用が増加している。
  - ④首都圏、海外へ顧客(販路)が広がっている。

●KPI:農業産出額 100億円(交付金を含む)

(単位:億円)

	H25	R4	R6	実績比(H25/R4)	R4の主な要因
米	16.0	12.6	20.0	79%	転作による面積減、米価下落
畑作物	9.0	14.7	12.0	163%	転作作物の作付拡大
野菜	3.0	5.6	9.0	187%	南瓜・ブロッコリー作付拡大
花卉	9.0	10.7	15.0	119%	作付現状維持、販売単価増
畜産・酪農	3.0	3.4	4.0	113%	現状維持
加工品等	—	1.8	3.0	—	道の駅直売所開業
計	40.0	48.8	63.0	122%	—
交付金	38.0	43.6	37.0	115%	転作作物の作付拡大
計	78.0	92.4	100.0	118%	—

●経営戦略:各取組と指標を設定

- ・主な取組
- ①北石狩型輪作体系の構築
  - ②南瓜集出荷貯蔵施設新設
  - ③農業総合支援センター設立
  - ④麦バラサイロ増設
  - ⑤花卉のスマート農業実証
  - ⑥有機農業取組団体設立
  - ⑦無料職業紹介所設置
  - ⑧野菜栽培ハウス導入支援
  - ⑨基盤整備事業の実施



## 見直しの方針

### ビジョン見直しの方針

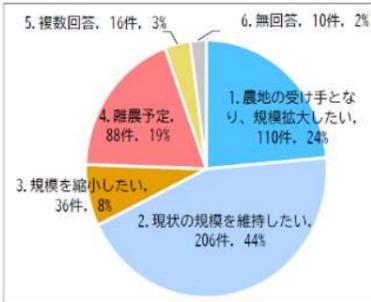
さらに厳しさを増す農業情勢に対応するため、1年間期間を前倒して、「当別町農業10年ビジョン」の基本となる「経営理念」や「将来構想」は維持しつつ、「経営目標」、「経営戦略」や「経営戦略」について見直しを行う。

### 今後10年を見据えた主な課題

●農業従事者の急速な減少

・町の農業者のうち約3割が概ね10年後には、離農や経営規模の縮小を考えている。

・1戸当たりの担う経営面積の拡大、農業インフラの維持困難、農村コミュニティの衰退、農地の遊休化等が懸念される。



●水田活用の直接支払交付金の見直し

・交付金の見直しにより、「水田機能の維持」と「畑地化の転換」について、水田利用の方向性を慎重に検討する必要がある。

▶需要の増加が期待される用途の米生産

▶当別に適した畑作物の経済生産性を高める取組

●社会情勢(外部環境)の変化

・食料・農業・農村基本法の見直し

・酷暑など気象変動等による農産物生産の不安定化

・人口減少に伴う国内市場の一層の縮小

・農業資材や高熱水費、輸送費などの経営コストの更なる上昇

・SDGsなど環境や人権に配慮した農業の国際的な議論

・新型コロナウイルス感染症の影響による需給構造の変化

## 第2期 当別町農業10年ビジョン

### 1 産地としての基本理念

●第1期のビジョンの基本理念を引き継ぐ

・当別町農業の強みを最大限に活かす経営理念

### 2-1 経営目標

●交付金を含まない農業産出額を経営目標とする

・高収益作物や付加価値の高い農産物の生産、6次化やブランドの創出、輸出などの販路拡大の取組を進め、当別町農産物の販売額の底上げを図る。

・食料自給率の向上や個々の農業経営の安定化に資する交付金の増額は目標値に含まない。

### 2-2 経営戦略

●今後10年を見据えた課題に応じて戦略を修正

●4本の経営戦略の柱に「農業生産基盤の強化」を追加  
・農地の集積・集約や農業生産基盤の高度化により、生産の効率化と生産力向上を図る。

### 3 将来構想

●第1期のビジョンの将来構想を引き継ぐ

### 4 当別町農業が直面している状況の分析

●新たな課題(社会情勢の脅威)を追記

### 5 経営戦略

●経営戦略に重点施策を位置づけ

・「スマート農業」、「6次産業化」、「環境保全型農業」、「農業経営の法人化」を重点施策とする。

●各取組内容や指標を現状に即して見直し

・農業者や農業団体に基礎調査やグループインタビューを実施し、取組内容や指標を見直し。

●期間:令和6年度～令和15年度

●KPI:農業産出額 70億円(交付金を含まない)

(単位:億円)

	R4	R15	対比	
米	12.6	16.0	127%	第1期の目標値を下方修正
畑作物	14.7	19.0	129%	新たに目標値を設定
野菜	5.6	9.0	161%	第1期の目標値を継続
花卉	10.7	15.0	140%	第1期の目標値を継続
畜産・酪農	3.4	4.0	118%	第1期の目標値を継続
加工品等	1.8	7.0	389%	新たに目標値を設定
計	48.8	70.0	143%	

●経営戦略

- ①水稻・畑作物の生産性向上～作業の共同化や生産技術導入による生産性向上
- ②野菜・花きの生産拡大～労働力の確保、選別施設や収穫機の導入による作付拡大
- ③多様な人材の総力を発揮～農業経営の法人化や新規就農者の確保
- ④ブランド化、6次化、販路拡大～付加価値の拡大、輸出など販路拡大

(追加) ⑤農業生産基盤の強化～農地の集積・集約化、基盤整備の高度化の推進

・農業者の経営面積が増加傾向にある中、農地集積による農地分散の解消を進め、基盤整備による圃場の大区画化や地下灌漑の導入など、経営戦略①～④の土台となる農地のフル活用に向けた基盤整備の強化を図る。

●経営戦略

・農業者の経営の安定化を基本に、持続的に食料を供給できる産地形成を図るため、**離農する経営の受け皿となる農業者に対する支援の取組「スマート農業」や「農業経営の法人化」**や**付加価値向上を目指す農業者に対する支援の取組「6次産業化」や「環境保全型農業」**を重点施策として位置づけ経営戦略を強力に推進する。